

## 抄 録

## 過去5年間における感染性胃腸炎のウイルス検出状況について

第59回鹿児島県公衆衛生学会 口頭発表

〔平成29年5月19日 鹿児島市〕

浦元 千織 岩元 由佳 中堂園文字<sup>1</sup>  
穂積 和佳 中山浩一郎 御供田睦代  
大坪 充寛

## 献血血液における重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) ウイルス抗体の保有状況

岩元 由佳 浦元 千織 中堂園文字<sup>1</sup>  
穂積 和佳 中山浩一郎 御供田睦代  
大坪 充寛

SFTS (重症熱性血小板減少症候群) は、2011年に中国の研究者らによって発表されたブニヤウイルス科フレボウイルス属に分類される新しいウイルスによるダニ媒介性感染症である。2013年に国内初の患者が確認されて以降、2017年2月1日までに全国で229例、鹿児島県内で19例の報告があり、致死率は全国で約23%、県内で約26%である。2015年に実施した狩猟関係者や患者発生地域住民を対象としたSFTSウイルス抗体の保有状況調査とあわせて献血血液1000検体についてもSFTSウイルス抗体の保有状況を調査した結果、狩猟関係者及び患者発生地域住民のSFTS保有率は0.3%、献血血液では検体保有は確認されず、県内住民のSFTSウイルスの抗体保有率はきわめて少ないことが推測された。

1 暮らし保健福祉部健康増進課

## Kawasaki型とKuroki型の重複感染がみられたつつが虫病の1例

中堂園文字<sup>1</sup> 久留 光博<sup>2</sup> 浦元 千織  
岩元 由佳 穂積 和佳 中山浩一郎  
御供田睦代 大坪 充寛

つつが虫病は*Oriental tsutsugamushi*を保有するツツガムシに刺されることにより感染する熱性発疹性疾患である。当センターではつつが虫病予防対策事業として抗体検査を行っている。今回、患者痂皮からKawasaki型とKuroki型の両遺伝子を検出し、重複感染を確認したので報告する。

1 暮らし保健福祉部健康増進課 2 春陽会中央病院皮膚科

感染症発生動向調査事業における病原体定点から搬入された過去5年間の感染性胃腸炎患者の便565検体を対象に、ノロウイルス、アイチウイルス、アストロウイルス、エンテロウイルス、ヒトパレコウイルス、A群ロタウイルス、アデノウイルス40/41の検査を実施し、ウイルス検出状況を調査した。その結果、ウイルス検出数はおおよそ2つのピークを示し、第1のピークはノロウイルスの検出ピークと、第2のピークはロタウイルスの検出ピークと一致していた。また、ヒトパレコウイルスは、10件中6件が他ウイルスと重複して検出されているため、胃腸炎症状の原因であると確定することは難しいが、乳児に無菌性髄膜炎などの重症例を引き起こした報告もあり、引き続き検査を実施することは重要であると考えられる。

1 暮らし保健福祉部健康増進課

## しらす干しの天然由来の過酸化水素含有量について

松岡さゆり<sup>1</sup> 吉田 純一

しらす干し製造における漂白目的の過酸化水素の使用については、食品衛生法に基づいて定められた添加物の使用基準において「その1kgにつき0.005g以上残留しないように使用しなければならない。(抜粋)」とされている。鹿児島県では、県内産のしらす干しの過酸化水素含有試験を平成13年度から毎年実施しており、基準値を超えて検出されるものが度々見られる。それらは全て保健所の立ち入り調査により、製造過程において使用していないことが確認されており、すべて天然由来のものと推測された。

今回、実験室内での擬似的な製造において製造条件等について検討したところ、①釜ゆで前の流水洗浄、②乾燥方法の選択、③乾燥時間の調整等による、天然由来の過酸化水素の残存抑制の可能性を示唆する知見が得られた。

1 暮らし保健福祉部薬務課

## 曾於市地下水の硝酸性窒素等濃度の経年変化について

右田 裕二 輅 憲弘 中尾 兼治<sup>1</sup>  
宮元 誠 山田 正人<sup>2</sup>

地下水汚染の原因の一つである硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素（以下、「硝酸性窒素等」という）は、過剰に含まれた飲料水を摂取することにより、メトヘモグロビン血症を引き起こすことが知られている。

鹿児島県では、平成元年度から、水質汚濁防止法に基づく測定計画により地下水の水質調査を実施している。特に、都城盆地の南西部に位置する曾於市の旧末吉町（末吉地区）及び旧財部町（財部地区）においては、都城盆地硝酸性窒素削減対策実行計画に基づいた地下水質モニタリングを平成17年度より行っている。今回平成17年度から平成27年度までの末吉、財部地区における地下水質の状況を解析した結果、硝酸性窒素等濃度はほぼ横ばいとなっている。一度地下水の汚染が起こると改善は困難であり、上昇を抑えた現状維持となっている。一方で、濃度が減少している井戸も見られることから、今後も対策を継続し、監視していくこととしている。

1 北薩地域振興局保健福祉環境部 2 熊毛支庁保健福祉環境部

## 池田湖の全層循環後の水質について

宮元 誠 輅 憲弘 中尾 兼治  
右田 裕二 山田 正人

池田湖における2006年の鉛直循環及び2011年、2012年の全層循環後の水質について調査を行った。

その結果、循環前に水質の悪化が見られていた底層部において、循環後はT-P、T-N及びCODの濃度が低く推移し、良好な水質となっているだけでなく、表層部においても濃度低下が見られ、良好な水質となっていることが分かった。

## 鹿児島県における微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）について

西中須暁子 福田 哲也<sup>1</sup> 平瀬 洋一  
大坪 充寛

微小粒子状物質（以下「PM<sub>2.5</sub>」という。）による環境汚染については、県民の関心は高い。そこで、2012年度から2015年度までの、PM<sub>2.5</sub>の常時監視調査における質量濃度測定結果について検討を行った。

その結果、各測定局の年平均値による経年変化は、ほぼ横ばい傾向であった。ただし、2013年度については、大部分の測定局において高い値を示した。また、春季に高濃度を示し、夏季に低くなり、秋季から春季にかけて高くなるという季節変動を示し、5月頃に最も高い値を示すことが多かった。

また、調査期間の日平均値の最大値を示した日については、いずれも黄砂等の大気現象が観測されており、後方流跡線からも大陸からの越境汚染によるものであることがわかった。一方、短時間、特定の測定局だけが高濃度を示す場合には、桜島による影響を受けていることが示唆された。

1 環境林務部廃棄物・リサイクル対策課

## 口永良部島における二酸化硫黄濃度について

田知行紘太 福田 哲也<sup>1</sup> 東小蘭卓志  
西中須暁子 平瀬 洋一 大坪 充寛

2014年8月に口永良部島新岳付近で34年ぶりに噴火が発生し、噴火警戒レベルが1（平常）から3（入山規制）に引き上げられた。また、2015年5月には新岳で爆発的噴火が発生し、噴火警戒レベルが3から5（避難）に引き上げられ、全島民が島外へ避難する事態となった。

噴火に伴い発生する二酸化硫黄（SO<sub>2</sub>）により、住民の健康への影響が懸念されたことから、本県では2014年9月、口永良部島にSO<sub>2</sub>自動測定機を設置し、2017年3月まで濃度測定を行った。

1か月間のうち環境基準を達成しなかった日数は、2015年5月の爆発的噴火以降減少した。

当センターによる測定地点は、新岳火口の北西方向3kmに位置し、主に南東からの風向の時にSO<sub>2</sub>濃度を把握していると考えた。また、測定地点周辺は口永良部島

住民の大半が居住している地域であり、SO<sub>2</sub>の影響評価という点では一定程度機能していると考えられた。

1 環境林務部廃棄物・リサイクル対策課

第59回鹿児島県公衆衛生学会 誌上发表

[平成29年5月19日 鹿児島市]

レジオネラ症患者発生に伴うPFGE解析について

穂積 和佳 中山浩一郎 中堂園文子<sup>1</sup>  
岩元 由佳 浦元 千織 御供田睦代  
大坪 充寛

レジオネラ症はレジオネラ属菌を原因とする感染症で、肺炎などを引き起こし重篤な場合死に至ることもある。レジオネラ症患者の発生に伴って、感染源と思われる入浴施設の温泉水と患者喀痰の培養同定、PFGE解析（改良法）を行ったところ、温泉水及び患者喀痰から分離された*L. pneumophilla* SG1はPFGEで同一の遺伝子パターンを示し、同一起源の菌であると考えられた。PFGEの改良法は、従来法と比較し短時間で遺伝子解析が行え、感染源の早期特定に有効であることがわかった。

1 暮らし保健福祉部健康増進課

養殖魚及び天然魚におけるヒドロコルチゾン検出状況について

清川 由樹 吉田 純一

ヒドロコルチゾン（以下「HC」という。）は抗炎症作用を有する動物用医薬品であり、食品衛生法により、現在は乳のみに残留基準値（0.01ppm）が定められている。一方、HCは生体反応として産生される副腎皮質ホルモンの一種であることから、乳以外の食品については、「農薬等の成分である物質が自然に食品に含まれる物質と同一であるときは、対象となる食品に通常含まれる量を超えてはならない」とされている。

平成26～28年度の行政依頼試験の検体のうち、養殖魚において約4割の検体からHCが検出されたが、天然魚については9割以上の検体から検出され、自然条件下でも定量下限を超過することが明らかになった。ただし、養殖魚及び天然魚のいずれにおいても個体によってHCの

含有量が異なるため、魚類に通常含まれる量を把握することは難しいことから、今後更にデータの蓄積を行う必要があると思われる。

第43回九州衛生環境技術協議会 口頭発表

[平成29年10月12日 北九州市]

鹿児島県におけるヒトパレコウイルス検出状況について

浦元 千織 岩元 由佳 中山浩一郎  
山本 真実 穂積 和佳 御供田睦代

平成28年度の感染症発生動向調査事業における感染性胃腸炎、無菌性髄膜炎患者検体及び急性脳炎等の行政検査として当センターに持ち込まれた検体についてHPeVの検査を行った結果、15件からHPeVが検出された。感染性胃腸炎の便では約7%からHPeVが検出されたが、そのうちの半数以上から他ウイルスの重複感染が見られた。また、無菌性髄膜炎や急性脳炎等の検体ではHPeVと他のウイルスの重複感染は見られなかった。

第76回日本公衆衛生学会 ポスター発表

[平成29年10月31日 鹿児島市]

過去5年間ににおける感染性胃腸炎のウイルス検出状況について

浦元 千織 御供田睦代 大坪 充寛

(内容は第59回鹿児島県公衆衛生学会総会と同じ)

